

非常時の照明「光源+なにか」アイデア対決!

【もっとも手に入りやすい『水』で・基本&応用】

①水のかで光を拡散させる、という手法はずいぶん定着してきました。携帯電話やスマートフォンのライト部分に水入りペットボトルを乗せるだけでこの輝き!



②懐中電灯を使う場合は、トイレトーパーの芯の穴に入れてからペットボトルを乗せると安定するそうです。



③水の中に牛乳を数滴入れて乳白色にすると、柔らかな光になってさらに広い範囲が明るくなります(※画像の状態だと『入れすぎ』とのこと。本当に数滴でよい)



【水以外にも使えるものはいろいろ!】

④ラジオで紹介されたというテクニックがこちら『消臭ピーズ』! 実践された方のコメントでは、「ペットボトルより光る」とのことでした。クリスマスのお飾りなどにも応用してみたくありませんか。



⑤こちらも定番になってきました『懐中電灯+白ポリ袋』この画像では、白ポリ袋をふくらませて懐中電灯に結びつけ、湯呑に入れて立たせています。周囲全体に光が届いているのがよくわかります。

「明るい」話題だったと思います。手元にある小さな光を、そのとき手に入るものでいかに大きく強くするか、そのアイデアの競演をご紹介します。

(Twitterほか)多くの災害に見舞われた2018年は、さまざまな防災アイデアの蓄積された一年でもありました。特に情報交換が頻繁に行われていたのが「照明」。聞いていた方法を試してみたらうまくいった、もつといいやりかたを教わったなど、停電のさなかにあっても工夫してがんばっているみなさんの姿が目に浮かぶような、文字通り「明るい」話題だったと思います。

神戸ルミナリエ

点灯を前に『ハートフルデー』開催

「神戸新聞NEXT(ほか) 阪神・淡路大震災の犠牲者を追悼する」神戸ルミナリエ(7~16日)を前に、障害者らを招待する「ハートフルデー」が5日、神戸市中央区の東遊園地であった。車いす利用者や介助者ら約1万4500人が訪れ、光のオブジェを楽しんだ。混雑の中では鑑賞が難しい人たちに「足早く楽しんでもらおうと、1999年から続いている。24回目の今年のテーマは「共に創ろう、新しい幸せの光を」。震災からの再出発を経て、光のオブジェの先で新たな歴史が幕開けするというイメージが込められている。史上最多となる約51万個の発光ダイオード(LED)を使用し、回廊や壁掛けの作品のほか、兵庫県政150年を記念した装飾も登場する。

巨大な壁掛け作品「スパッリエラ」などの明かりが一斉にともされると、来場者からは拍手と歓声が上がった。幼少の頃から右脚に持病がある女性(73)「神戸市垂水区」は震災で友人を亡くし、避難所の小学校で炊き出しに携わった。「学校の廊下でたくさんの方が寝てね。月日がたつのは早いけど、ルミナリエの光を見ると、あの時が思い出されます」と光を見つめていた。

ルミナリエの点灯式は7日午後5時45分から。最終日(16日)には消灯式が予定されている。



▲5日夜、東遊園地で光の装飾を見上げる来場者ら(撮影・中西大二)



▲7日夜、黙祷ののち点灯 神戸市中央区(撮影・辰巳直之)

資料: Twitter・神戸新聞NEXT、神戸ルミナリエ実行委員会

we support ↓

RQ
災害教育センター

MONTHLY

「東北に黒糖を送ろう! 大作戦しんぶん」改め
復興支援『すけさきた』
かむらばん しんぶん

「すけさきた」とは宮城県登米市あたりの言葉で「ボランティアに来たよ」という意味である

DECEMBER
11
2018

